

授業概要

授業を設計-実施-評価するために必要な知識や技術を習得することを目的とし、わかりやすい授業を設計する方法論、とりわけ中学校及び高等学校段階における授業内のコミュニケーションを支援する環境や方法（チームティーチングや習熟度別学習等）、学力向上に向けた取り組み、教育メディア等の活用に関する諸理論や実践記録を検討することを通して、教える（子どもが学ぶ）ための方法や技術について考える。また、学習指導案の作成及び模擬授業を行い、教師として授業を行う基礎的な知識や技術を習得する。

授業計画

| | |
|------|-------------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション、学ぶとは |
| 第2回 | 教育方法の歴史、学習指導の原理と形態 |
| 第3回 | 教室での学び（学習と指導の形態、一斉授業～個別学習、協同の学び） |
| 第4回 | 授業とコミュニケーション、教師の役割（思考するクラスを目指して） |
| 第5回 | 授業をつくるには（授業のデザイン）設計・実施・評価 |
| 第6回 | 授業をするには（授業の実施）（とりわけ、思考を促す発問） |
| 第7回 | よい授業とは（授業の評価） |
| 第8回 | 学びの仕掛け①：教材、教科書、板書計画 |
| 第9回 | 学びの仕掛け②：学習のねらいと評価、めあてと振り返り |
| 第10回 | 学びの仕掛け③：情報機器の活用 |
| 第11回 | 教育メディア、教材開発の方法と技術 |
| 第12回 | 動機付け、学習意欲一高め・継続させるには |
| 第13回 | 教師の情報化 |
| 第14回 | 再び、授業をつくる(模擬授業の実施) |
| 第15回 | 授業の改善向上のために（授業実践力を培うには・教科を超えた教師の学び） |
| 第16回 | 定期試験 |

到達目標

- 1) 授業における教師の機能を、授業のデザインという視点から、実施・評価をふまえて、解説できる。
- 2) 事例をもとに、授業における教育メディアの活用の意義と有効性を説明できる。
- 3) 教材開発の視点を、2つ以上の例を挙げて、説明できる。

履修上の注意

- 1) 模擬授業の準備、実施、改善の努力が求められる。
- 2) 毎回、シャトルカード（大福帳）に記入が求められる。
- 3) 2/3以上の出席を要す。

予習・復習

- 1) 第1回目には、テキストの第1章及び第2章を読み、理解してくること。
- 2) 毎回、次回に向けて小課題が出されるので、次時まで確実にそれを行ってこること。

評価方法

3本のレポート(35%)と、最終に筆記試験(35%)を課す。また、毎時間、授業内容に関するコメント(15%)を書かせる。講義中の演習や作業への参加度(15%)も加味する。

テキスト

生田孝至他編(2016)『未来をひらく教師のわざ』、一壜書